

# 長野県革新懇ニュース

2021 年 4 月号

発行日 4 月 10 日

会 費 2,000 円  
購 読 料 3,000 円 (送料込)  
口 座 番 号 00510-3-15971  
加 入 者 名 長野県革新懇

263

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会

(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕

〒 380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内

TEL : 026-234-1231 FAX : 026-234-2219 メール : mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 羽田次郎さんインタビュー  
2 面 1 面続き、「近現代信州の歴史回廊」杉山洋子さん  
3 面 「日本を文化レベルの高い国にしたい」成瀬千秋さん  
「正念場の日本郵便」磯野博康さん 読者の声、漢字パズル  
4 面 雨よ降れ 「演歌」なつかし 窪島誠一郎さん  
写真で辿る信州と戦争「敗戦間際の狂気 (3)」北原高子さん  
映画評論『すばらしき世界』内山到さん

長野県革新懇

検 索



## 市民と野党の共同の上に 兄の志をかならず引き継ぐ

は た じ ろ う  
羽田 次郎 さん

参議院長野選挙区補欠選挙

予定候補者

1969 年 9 月 7 日生まれ

1988 年、フランスアルザス成城学園高等学校卒業、1995 年、米国のノースカリフォルニア州ウェイクフォレスト大学中退、その後、羽田孜氏の秘書。

現在、フェザーフィールド株式会社代表。

尊敬する人物尾崎行雄。座右の銘は、頭は低く目は高く口慎んで心広く孝を原点として他を益す

あまりの衝撃に  
語るべき言葉がない

Q 現在の率直な心境をお聞かせください。

昨年の 12 月 27 日、兄が何の前触れもなく突然、新型コロナウイルス感染症によって命を失いました。まだ 53 歳という若さでした。私がその第 1 報を兄の秘書から受けたのですが、その時の衝撃はとても言葉にできません。そして、私が直接そのことを母に伝えなければならなかったのですが、その時のことを思い出すと涙が溢れてきます。兄には、男の子二人に加え、10 歳離れた 4 歳の女の子がいて、本当に目に入れても痛くないというような可愛がり方をしていたものですから、家族のことを思うと胸が張り裂かれるような気持ちです。兄が亡くなってまだ 2 ヶ月半ぐらいなのですが、さまざまな思いが去来して、心の整理がなかなかつかないというのが率直な気持ちです。また、いまだに納得すらできていないという状況です。

PCR 検査ができず  
直後に症状が急変

Q 政府のコロナ対策についてはどうお考えですか？

兄の場合、体の不調を訴えて PCR 検査を受けようとしたわけですが、すぐには受け入れられず、直後に急変して、手遅れになりました。そういう意味では、誰でも心配

になったら PCR 検査が受けられるようにするとか、体調を崩したらすぐに入院できる施設の拡充を実現していかなければいけないと痛切に思います。昨年 4 月の感染症の第一波拡大の頃から、冬にはもっと厳しい状況になるだろうと専門家会議も提唱していた、半年以上の期間があったわけですが、他国ではそのことを見越して、ある程度の対策をしている中で、日本では検査体制の拡充とか療養施設の確保ということが結局できていなかったというのは、政府の不作為だったという気持ちになります。それを思うと本当に無念です。後手、後手になっている今の政府の対応を何としても正していかなければいけないと思います。

普通の人の感覚を  
大切にしたい父と兄

Q お父さんやお兄さんの思い出をお聞かせください。

父の秘書として地元で 3 年ほど、東京時代を合わせると 10 年以上関わってきましたが、父が中堅議員の頃だったと思いますけど、島崎藤村が故郷の木曾について語った「血につながるふるさと、心につながるふるさと」という言葉を用いて「血の通う政治 普通の言葉が通じる政治」ということをよく演説で訴えていました。それは永田町の論理ではなくて、市民感覚での政治を目指していた父の政治姿勢を語っていたものです。私自身も今の永田町の論理みたいなこと

にうんざりしているところなので、私も父の言葉やその思いを引き継いで、街頭演説の中で話させて頂いています

兄については「チルドレンファースト」ということをずっと言っていて、国土交通大臣になった時も子どもたちの未来のことを考えた政策を行っていくべきだと発言し続けていたんですが、それを引き継ぐ気持ちで今回立候補を決意した次第です。そういう意味では、子どもや孫たちのためになる政治をめざしていきたいということを街頭でも話させて頂いています。

ですから、父の普通の感覚の政治ということと、兄が語っていた未来の子どもたちのための政治ということの二つを訴えております。父や兄は日ごろから普通の人の感覚を失わないようにしていたと思うので、私もそのスタンスでやっていきたいと考えています。実際に困っている方のお話を選挙戦を通じて少しでも多く聞いて、この地域の皆さんの代弁者としての役割を果たしていきたいと思えます。

協定書の政策実現に  
全力を尽くす

Q 協定書についての思いをお聞かせください。

今回の補欠選挙というのは、欠員した議員の残りの任期を引き継ぐ選挙ですので、そういう意味においては、2019 年の参議院選挙で市民と野党の統一候補として兄が与党候補に大きな差をつけて勝たせて頂いたわけ

すから、故人の政治姿勢や政策を受け継いでいくことが重要だと思えますし、前回交わされた協定書を遵守することは当然のことです。そうした流れの中で、今回信州市民アクションの皆さんと共産党、社民党、立憲民主党と私で結ばせていただいた政策協定によって、私自身が市民と野党の統一候補として認めて頂いたわけです。それは本当にありがたいことですし、そのことを誇りと自信にして今回の選挙を闘っていききたいと思えます。また、協定書に盛り込まれた政策については少しでも実現に近づくように働いていきたいと思っています。

憲政の父  
尾崎行雄を尊敬

Q 今の国会のあり方についてはどのようにお考えですか？

私の名刺の裏に尊敬する人物として尾崎行雄翁の名前が書いてあります。尾崎行雄は明治から昭和にかけて 60 年間、国会議員を続けられた「憲政の父」と言われている方ですが、大正 14 (1925) 年に書かれた『政治読本』という本の中で、国民の生命財産に関する法律は、国民自ら制定することが立憲政治の本旨であり、議会で制定された法律を運用して国民の福祉を向上させるのが行政であり、不当に侵害された権利を保護して回復させるのが司法であるということを書いてあります。太平洋戦争が始まるずっと前の 1925 年にこうしたことを訴えていた政治家が日本